

はじめに

人と大地がひびきあい躍進する快適都市おとふけ・・・これは、2010年までを期間とする第4期総合計画が掲げる本町まちづくりの将来像です。人と自然との調和による潤いと安らぎのある生活空間と、大地の恵みを生かした力強い産業を次の世代に引き継いでいこう、との思いが込められています。

私たちの生活は、近年非常に便利に、そして快適になりましたが、そこには家庭生活や産業活動を支えるエネルギーが大量に消費されています。エネルギー源は石油をはじめとする化石燃料が中心で、このままでは、資源の枯渇はもとより地球温暖化の原因とされる二酸化炭素など温室効果ガスの排出を増やし続ける結果となります。

最近の地球規模で発生する大規模な干ばつや集中豪雨などの異常気象は、地球温暖化に起因するものと言われております。地球環境を維持し、音更町の自然や風土を守っていくために、私たちにできることのひとつが、二酸化炭素の排出を少なくすることです。そのためには、エネルギー使用の節減の取り組みとあわせ、私たちの身近に存在し、今まで使われずにいた、例えば、太陽光、雪氷、温度差、バイオマス、風力といった、再生が可能で二酸化炭素の排出が少ない、いわゆる新エネルギーを化石燃料の代替として活用していく必要があります。

新エネルギーは、それぞれの地域にいろいろな形で特徴的に存在しております。このため、音更町では町内の新エネルギーの特性を明らかにし、その有効活用の指針として「音更町地域新エネルギービジョン」を策定いたしました。

今後は、このビジョンにより、町民、事業者そして行政が連携協力して新エネルギーの活用を図り、農業、観光をはじめとする本町産業の持続的発展と自然豊かな生活空間を維持し、第4期総合計画の将来像の実現を目指すとともに、地球に住む一員としての役割を果たしていきたいと考えております。

最後に、当ビジョンの策定にあたりご尽力賜りました帯広畜産大学地域共同研究センター長、岡本明治教授をはじめとする音更町地域新エネルギービジョン策定委員会の委員の皆さま、並びに、北海道経済産業局、十勝支庁商工労働観光課、及び独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構北海道支部の関係各位に心からお礼を申し上げます。

2006年2月

音更町長 山口 武 敏